

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1870300272
法人名	医療法人 斎藤医院
事業所名	グループホーム藤の都
所在地	福井県越前市北府三丁目7-25 (電話) 0778-25-6002

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】(平成20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	70 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 斎藤医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療・福祉を展開し、地域に根ざしている医療法人を母体を持つこのグループホームは民家が並ぶ中に立地し、自然な光が多く入る明るい居間からは田んぼも眺められ四季を感じる事が出来ます。医療法人の特性を活かし、医師である理事長、看護師が約週に5日ホームに来られ、入居者の健康管理をされており安心な体制がとられています。また、全職員に向けた内部研修体制も充実し、ケアに活かされ、管理者、職員は入居者がいつも笑って暮らせる事を大切に考え、地域との関わりやつながりも重視し、地域密着型としての理念も掲げられ、実践に向けて取り組まれています。入居者は歌を歌ったり、レクリエーションで季節毎の作品を作ったり、ユニット間だけでなく、近くの同法人の事業所とも交流しながら、生き活きと過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価課題である、職員間の申し送りやなどについてや入居者の柔軟な要望に対応出来るように職員体制を工夫したり、改善計画を立てながら職員と話し合い、取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の内容や意義については職員に周知を図っています。自己評価票は全職員に配付し、意見を求め、管理者、ユニット責任者中心にまとめられています。出来上がった自己評価票は職員間で回覧し、また、閲覧できるようにホーム入口に設置もしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族・区長・民生委員・市職員・法人理事長等が参加する運営推進会議では、毎回テーマを決めて積極的に取り組まれており、ホームの活動報告、それぞれの立場からのホームの評価、要望を話し合い、活発な意見交換の場とし、サービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際に、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに配慮されており、運営推進会議や年に2、3回家族を交えての行事の際に意見等を表せる機会をつくっています。書類にも苦情受付を明確にし、ホーム内に掲示しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	区長の協力の下、地域のお知らせ等で情報を得て、地域の清掃活動や水害訓練に参加しています。近所の方が花や野菜を持って来て下さったり、ホームの行事の際にも近所の方に声を掛けています。また、グループホームの案内を載せた通信を地域のいきいき教室で配布もしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者がいつも笑って暮らせる事を大切に考えられた理念に地域密着として、地域との関わり、つながりを積極的に取り組んでいく事がさらに盛り込まれた、グループホームの理念をつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りの際やカンファレンス、会議の際に理念を念頭に置いて話しをしている。ホームのリビングに大きく掲示されており、常に意識出来るようにもしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長の協力の下、地域のお知らせ等で情報を得て、地域の清掃活動や水害訓練に参加している。近所の方が花や野菜を持って来て下さったり、ホームの行事の際にも近所の方に声を掛けている。また、グループホームの案内を載せた通信を地域のいきいき教室で配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容や意義については職員に周知を図っている。自己評価票は全職員に配付し、意見を求め、管理者、ユニット責任者中心にまとめられている。出来上がった自己評価票は職員間で回覧し、また、閲覧できるようにホーム入口に設置もしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・区長・民生委員・市職員・法人理事長等が参加する運営推進会議では、毎回テーマを決めて積極的に取り組んでおり、ホームの活動報告、それぞれの立場からのホームの評価、要望を話し合い、活発な意見交換の場とし、サービスの向上に活かしている。		

グループホーム藤の都

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	なるべく市役所に出向き、顔を合わせて担当者と相談し、対応もすぐにももらえる関係づくりがされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族がホームに来られた際に、入居者の様子や健康状態を直接伝えている。遠方で面会に来られない方には、定期的の手紙や写真で伝えている。行事の様子を掲載した季刊誌も発行している。金銭管理については、出納張を確認してもらい、領収書原本を返却している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際に、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに配慮しており、運営推進会議や年に2、3回家族を交えての行事の際に意見等を表せる機会をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新事業所開設やグループホーム間の異動はあるが、離職も少なく馴染みの関係でのケアに配慮されている。職員が代わる場合においては、入居者の状況を把握してもらい、夜勤を2人体制にしたり、馴染みの職員と一緒にケアに入ってもらうように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画が立てられた全職員参加の法人内研修、認知実務者研修や県主催の研修、グループホーム協議会の研修など積極的に参加している。研修後は報告書を作成し、同法人のグループホーム合同で伝達研修を実施し共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が役員をしているグループホーム連絡協議会を通して、他ホームの見学、研修や意見交換を実施し、サービスの質の向上を図っている。また、職員交換研修も予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者本人に見学や部屋が空いている場合はショート利用をしてもらっている。家族から情報を得て、相談しながら徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	巻き寿司などの料理のコツやつるし柿を縄から編んでもらい職員も教えてもらいながら、一緒に過ごしており、入居者同士もお互い支え合いながら日々過ごしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人情報シート、センター方式の一部も活用している。思いや希望を日々の会話でも聞くようにしており、得た情報についてはケア記録にて職員間で共有している。半年に1度、食事と入浴についてのアンケートをとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いを聞いてケアプランに反映するようにしている。カンファレンスには、看護師も参加し、医師からの意見も参考にし、一人ひとりに合ったケアプランの作成がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは基本的に6ヶ月に1回見直されており、日々の記録もプランそった記録がされており、3ヶ月毎に評価を行い、家族に評価結果を渡している。また、状態に変化があった場合は新たなプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、通院介助などを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望聞き、連携がとれるように支援している。医師である理事長の往診、看護師による毎日の健康管理、緊急時に対応可能で安心した体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に希望を確認し、ホームで対応し得る最大のケアについて説明している。また、状態に変化が合った際にも意向を再確認し、家族、医師、看護師、職員と話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った対応、言葉掛けをしており、管理者からも言葉掛けについては特に職員に話しをするようにしている。個人情報は鍵の掛かる、事務所内に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にする上で、おおまかな1日の流れは決まっているが、入居者の希望やペースに出来るだけ合わせた支援をしている。		

グループホーム藤の都

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おおまかなメニューは決まっているが、入居者の希望を聞きながらその日の献立を考え、旬の食材を取り入れている。職員と一緒に調理や後片付けなど出来る事をしてもらっている。	○	一緒に食事をしているが、グループホームの特性を踏まえて、職員が同じものを一緒に入居者と食べながら、食事をさらに楽しむことの検討が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望にそった順番や声掛けを工夫したり、季節のお湯など楽しんでもらいながら支援をしている。ユニット間で曜日を分けているが入浴は基本的に週2回となっている。	○	半年に1回、入浴に関するアンケートがとられている。一人ひとりの生活習慣や希望を大切にしながらの支援の検討が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事やそろばん、歌詞カードを書いてもらったり、調理、裁縫、編み物など生活歴や特技を活かした支援や、タオル干しなどの役割や様々な作品を作成するレクリエーションや遠足やイベントを通して楽しみ事を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物など出来るだけ支援し、田んぼに面しているグループホームの庭にソファを出して日向ぼっこ等をしているが、外出が日常的ではない。	○	歩行が困難な場合でも、戸外へ出る事を積極的に支援したり、季節の良い時期は少しの時間でも日常的に外へ出る事が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵を掛けていないが、フロアへの入口は家族の同意を得て、簡単な鍵が掛けられている。外出希望があれば、できるだけ一緒に外へ出るように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署からは年に1回点検に来ている。ホーム独自で年に2回避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練もしている。訓練の際は区長や消防団の方も参加している。今後、運営推進会議等でさらなる地域への協力を得られる働きかけを行う予定である。		

グループホーム藤の都

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てたおおまかな献立を参考にしており、さらにホームの献立についてもチェックしてもらっている。食事・水分摂取量は毎回記録し、一人ひとりの状態に合わせて、食事をとってもらえるように、トロミを付けたり、ミキサー食にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は広々としており、日当たりも良く、畳コーナーがあったり、入居者で作った手作りの季節の作品やお雛様なども飾られている。空きスペースにソファを置くなど入居者が居心地良く過ごせる空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたリクライニングチェアやテレビなど持ち込まれており、作品や小物を置いてその人らしい居室づくりがなされている。全室うォッシュレットトイレ、洗面が付いており、収納スペースも多くあり、窓は障子になっている。		